

| 「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差 | | | | 「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差 | | | | | | | |
|--------------------------|----|------|----|----------------------|------|------|------|------|------|------|--|
| 学年 | | 第3学年 | | 学年 | | 第1学年 | | | 第2学年 | | |
| 年度 | 国語 | 数学 | 合計 | 年度 | 国語 | 数学 | 英語 | 国語 | 数学 | GTEC | |
| 令和12年度の目標 | | | | 令和12年度の目標 | | | | | | | |
| 令和11年度の目標 | | | | 令和11年度の目標 | | | | | | | |
| 令和10年度の目標 | | | | 令和10年度の目標 | | | | | | | |
| 令和9年度の目標 | | | | 令和9年度の目標 | | | | | | | |
| 令和8年度の目標 | ±0 | +2 | +1 | 令和8年度の目標 | ±0 | +2 | +5 | ±0 | +7 | +10 | |
| 令和7年度の結果 | -5 | ±0 | -2 | 令和7年度の結果 | -2.8 | +0.6 | +2 | -3.7 | +5.5 | +8.9 | |
| 令和6年度の結果 | -4 | -4 | -4 | 令和6年度の結果 | -4.1 | +1.5 | +4.8 | -3.2 | +3.2 | +5.6 | |
| 令和5年度の結果 | -1 | -2 | -1 | 令和5年度の結果 | | | | | | | |

| 年度 | 令和7年度 成果と課題 | | 令和8年度 目標 | | 令和8年度 目標達成に向けた取組 | |
|------|--|--|---|--|--|--|
| 内容 | | | | | | |
| 学校全体 | 【成果】落ち着いて学習する習慣が身に付き、授業の中で理解を深めることができています。 【課題】外国につながる生徒が多く、問題の内容を理解できずに、答えられない生徒が多いのが現状である。日本語教育に引き続き力を入れていく必要がある。また、授業で理解できたことが、一定の期間を経過した後に忘れてしまう生徒も多くみられる。家庭学習での反復練習の働きかけを多くしながら、既習事項の定着を図っていく。 | | 落ち着いて学習する習慣を大切にしつつ、家庭学習での反復練習の習慣をつける工夫をしながら、既習事項の理解と定着を図っていく。 | | ・思考力や表現力を高めるため、各学年の状況に応じて、指導内容を工夫していく。 ・外国につながる生徒の理解力を伸ばしていくため、日本語学級との連携を密にしていく。 | |
| 第1学年 | 【成果】積極的に授業に取り組む生徒が多く、授業の中で理解を深めることができています。 【課題】外国につながる生徒が多く、問題の内容を理解できずに、答えられない生徒が多いのが現状である。初期の日本語教育に力を入れていく必要がある。また、過去の1年生の生徒では、授業で理解できたことが、一定の期間を経過した後に忘れてしまう生徒が多くみられる傾向にある。中学校での学習における家庭学習の重要性を適宜伝えたり、具体的に家庭ですべき課題を提示するなどして、既習事項の定着を図っていく。 | | 積極的に授業に取り組む雰囲気大切にしつつ、家庭学習での反復練習の習慣をつける工夫をしながら、既習事項の理解と定着を図っていく。 | | ・国語や英語では、四人班のグループ活動に多く取り組ませることにより、聞く力や判断する力、表現する力を身につける。 ・数学では、プリントや問題集、ミライシードなどのデジタル教材等を活用し、十分な問題演習量を確保していく。 ・日本語学級の生徒には事前に今回の授業内容を伝え、本文などの予習をしてもらうなど、授業に前向きに参加できるように働きかけていく。 | |
| 第2学年 | 【成果】意欲的に授業に取り組む生徒が多く、授業の中で理解を深めることができています。 【課題】外国につながる生徒が多く、問題の内容を理解できずに、答えられない生徒が多いのが現状である。日本語教育に引き続き力を入れていく必要がある。また、授業で理解できたことが、一定の期間を経過した後に忘れてしまう生徒も多くみられる。1学年での学習面での課題を明確にしながら、家庭学習での反復練習の働きかけを多くし、既習事項の定着を図っていく。 | | 意欲的に授業に取り組む雰囲気大切にしつつ、家庭学習での反復練習の習慣をつける工夫をしながら、既習事項の理解と定着を図っていく。 | | ・国語や英語では、言葉に関心をもちさせるために、分からない言葉について積極的に調べさせるなどの取り組みを重ねていく。 ・数学では、図形領域、関数領域の苦手意識を払拭するため、問題演習の時間を十分に確保していく。 ・日本語学級の生徒には事前に今回の授業内容を伝え、本文などの予習をもらうなど、授業にこれまで以上に参加できるように働きかけていく。 | |
| 第3学年 | 【成果】目的意識を強く持って授業に取り組む生徒が多く、授業の中で理解を深めることができています。 【課題】外国につながる生徒が多く、問題の内容を理解できずに、答えられない生徒が多いのが現状である。日本語教育にさらに力を入れていく必要がある。また、授業で理解できたことが、一定の期間を経過した後に忘れてしまう生徒も多くみられる。進路に関する目標を明確にしながら、家庭での反復練習の必要性を実感させながら、既習事項の定着を図っていく。 | | 目的意識を強く持って授業に取り組む雰囲気大切にしつつ、家庭学習での反復練習の習慣をつける工夫をしながら、既習事項の理解と定着を図っていく。 | | ・国語や英語の授業において、文章から読み取ったことを伝え合い共有するグループ活動をすることで、読解力を向上させる。また、文章を読んで自分の考えたことを書いて表現させる活動を通して記述力を高めていく。 ・数学においては、自分の考えを文章で記入する問題への苦手意識を払拭するため、説明の型を提示し、型に沿って話したり書いたりすることで、生徒が説明の型を身につけられるようにする。 ・日本語学級と連携し、事前の予習に加え、授業でわからなかった学習内容をその日のうちに質問し解決する習慣をつけさせる。 | |